

平成 15 年度実践事例

地図を見て・まちを知る

【授業情報提供者】

(株)ファースト・クレエ

【主な授業実践者】

(株)ゼンリン

【実施教育機関】

宮城県仙台市立片平丁小学校

宮城県黒川郡大和町立吉田小学校

【対象学年】

小学4年

【実施した教科・単元】

小学4年 総合的な学習の時間

「きょうどに伝わる願いーふるさとれきしまップ」

【学習時間】

8時限

【授業概要】

地図を通して、町の移り変わり、地図の種類、企業やお店・官公庁での地図の使われ方を学習することで、地図の歴史や社会の役に立っている地図を学び、地図への理解を深める。また、インターネットや3DCGを使った新しい地図の知識の習得や体験、パワーポイントを使った地図の製作や発表の中で、情報の整理の道具としてのコンピュータに触れる。また、校外学習では、住宅地図を頼りに、地区の老舗や、お年寄りを尋ね、学区内の移り変わりを取材し、情報カードにまとめる。知らなかった「昔の話」や「場所」を訪ねたりすることで、地域の人々の願いについて考えると共に、地域の一員としての自覚が芽生える。

また、移動の途中で気がついた危険箇所や「こども110番」のお店を発見することも学習項目に加え、危険な場所や危険を回避する場所を自分の目で確かめることで、自分自身で安全を確保する技術を習得する。

【期待される効果】

地図を身近なものとしてとらえ、進んで使うことができる。

地域に残る古いものに関心を持ち、地域の行事などにも積極的に参加できる。

コンピュータを使って調べたことや意見を発表できる。



測量機で実習 (片平丁小)

【授業の流れ】

1回目 地図をつくる職業と地図の種類 1時限

地図の種類とその役割、使い方を理解する。住宅地図を使って、自宅や学校・役場を探す。

2回目 地図はどうやって作っているのだろう 1時限

地図の製作過程を実際に使われている調査票などを見ながら学習し、製作する過程での調査の重要性を知る。

3回目 地図はどこで使われているのかな? 1時限

タクシーのナビゲーションシステムや不動産・宅配業・警察などにおける住宅地図の使われ方を学習する。

4回目 校外学習でまちを調査してみよう 2時限

グループにわかれて学区内のお年寄りや老舗を訪ね、近所の神社の由来、町や商店の移り変わりの取材、調査を行う。また、特別令として、移動中に気が付いた危険箇所(歩道がない、車の往来が激しいなど)の発見や、子供110番の店舗・住宅の確認などを行う。

5回目 調査カードをまとめてみよう 1時限

取材先で聞いた話や、写した写真の中から調査カードにまとめる。

6回目 デジタルマップを完成させよう 1時限

パワーポイントを使い、住宅地図に調査カードを基にドキュメントを入力、写真を合成しマップを作成する。

7回目 デジタルマップを発表しよう 1時限

完成したデジタルマップをグループで発表する。



PCでマップ作成 (吉田小)



まちを調査中 (吉田小)



デジタルマップの発表 (片平丁小)



店の人の話をメモ (片平丁小)